



「良書ご案内」

書籍名	考える、書く、伝える 生きぬくための科学的思考法	著者名	仲野 徹
出版社名	講談社	発行年月	2021年 3月

企業人が日常的に書く文章には、レポート(報告書)、稟議書及び企画提案書等がある。

本書は論文の書き方を紹介している。レポートは、調べた内容とそれに対する感想を書くが、論文は意見を述べて事由を説明することが要求される。つまり自分の意見を述べることが必須事項となる。

したがってレポートよりも論文を書くことにより、私たちの思考能力は大きく伸びると考えられる。

仕事においても論文作成のノウハウを活用すれば、ビジネス文書のレベルは一段と向上することだろう。

仲野の「からだと病気のしくみ講義」(NHK出版)を読み、その考え方に興味を持ったことが本書購読のきっかけとなった。「わたし」は、すべてつながっており、体の中のその「つながり」を解説し、からだと病気のしくみを見事に解き明かしている。

大阪大学には新入生対象の学部横断的ゼミ(学問の扉)が36講座あり、そのジャンルは多彩で文系、工学系、物理系、医学生物学系に及ぶ。

仲野は医学系の教授、専門は病理学である。開講に当たり生徒募集要項を作成し、自ら生徒獲得に当たる必要がある。仲野のテーマは「健康と医学について考えよう」とし、特記事項として「授業内容を書籍にして出版する予定」と学生の興味を引く作戦にでた。本書は仲野ゼミ実践の記録である。

知識や情報はすぐ陳腐化する。ネットで調べれば十分だ。大学で学ぶことは、考え方であり学び方だ。物事を自分の頭で考え、自分の言葉で意見を述べるのが大学教育の要諦と考えられる。

仲野はゼミの目的を、①科学的な考え方 ②論文の書き方 ③プレゼンテーションの実習としている。

ゼミで紹介された科学的な考え方の一部を紹介する。

- ・正確なデータに基づいて考える。科学で何よりも大事なものは実験や観察の結果。
- ・健全な好奇心を持って疑う。データを少し疑ってみては…
- ・合理的に考える。まず仮説を立てて、次にそれに対する反証を考える。

私たちは、日常生活において、色々な出来事をいつもの「常識」としてぼんやりとやり過ごすことが多々ある。

その常識を少し疑って、科学的に考えれば「新しい常識、新しい世界」が見えてくるだろう。

岩城

編集後記

2月に入りましたが大阪にしては寒いと思いませんか?1月大阪の平均気温を見ると2020年/8.6度、2021年/6.2度、今年は5.6度で、数値通りに体も反応しています。「ラニーニャ現象」が原因で、太平洋東部の赤道付近の海域において海面の温度が平年よりも低くなる現象。今後、冬の終わりまで続く可能性が高いそうです、皆様用心致しましょう!さて、北京オリンピックが4日から始まりました。氷点下20度の中でジャンプし、金メダルを取った小林選手。スピードスケート1500mで0.44秒差で銀メダルとなった高木選手。金メダルを逃した悔しさとハイレベルで戦える嬉しさをコメント。凡人にはどのアスリートも勇者に見え、健闘を称えと共に、尊敬の念を抱きます。



発行所: 株式会社ライフデザイン研究所 所在地: 〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-8アビル2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067

編集人 伊藤